平成13年度業務実績評価：独立行政法人航空大学校

業務運営評価

項目	着実に実施している	な状態にある	着実に実施している	着実に実施状況にないとの認められる理由	その他のコメント等
1. 業務運営の効率化 (1) 組織運営の効率化 首席・次席教官の配置(実科) 首席教官の配置(学科)	○				責任体制を明確化するため、首席、次席制度の導入及び配置が計画どおり進んでおり、着実な実施状況にあるといえる。
(2) 人材の活用 管理部門職員の国土交通省との人事交流(1割~2割) 実科教官の国土交通省との人事交流(2名程度) 学科教官の他大学等との人事交流に関する調査	○				管理部門では、部門全体の2割程度が、1%の達成がなされ、2名の交流を計画している。また、他大学等との人事交流については、他分野に力を入れている。

<p>(3) 業務運営の効率化 教育・訓練業務の効率化 イ 学科教育 ・教育時間の短縮 (645時間) ・養成期間の短縮 (宮崎) (8ヶ月 6ヶ月) □ 実科教育 ・教育時間の短縮 事業用課程 (帯広・宮崎で 5時間) 多発・計器課程 (仙台 10時間) ・養成期間の短縮 (仙台) (8ヶ月 6ヶ月) 平成13年度入学者から実施 多発・計器課程 (仙台) は平成 13年度該当なし</p>	○			<p>教育時間及び養成期間の短縮が計画どおり実施されており、着実な実施状況にあるといえる。学科教育時間数については、影響を把握することも重要なので、教育内容を反映したシラバスについてフォローアップする必要があるとの意見があった。</p>
<p>訓練機材の利用率の向上 イ 点検項目の削減 (重整備) 作業日数を65日削減し、1機当たりの年間飛行可能時間を約12時間増加 □ 休業日に整備 (定時整備) 平日の作業日数を60日削減し、1機当たりの年間飛行可能時間を約11時間増加</p>	○			<p>重整備、飛行可能時間の増加に目よる98%が達成されており、現在の機体整備部の手方、改善が行われていることから、中期計画全体を見れば、次年度以降は、充分な目標達成が可能であるといえる。着実な実施状況にあるといえる。整備時間が目標値に達しない場合でも、整備時間の変動要素を考慮し、必要に応じて調整する必要がある。整備時間の変動要素を考慮し、必要に応じて調整する必要がある。</p>
<p>運航情報の電子化 訓練空港・空域の各種データの収集、電子化手法の検討及び情報の標準化</p>	○			<p>各種データの収集による情報の標準化及び電子化がなされており、着実な実施状況にあるといえる。</p>

<p>一般管理費の抑制 1%程度の節約</p>	<p>○</p>			<p>1%程度の節約の目標に対して、2%程度の節約がされており、着実な実施状況にあるといえる。 経営努力による節約残については、今後、財務諸表に明記する必要があるとの意見があった。</p>
<p>2. 国民に提供するサービス (1) 教育の質の向上 操縦教官の技能審査(各人1回) 在学生による授業評価の実施 卒業生・航空会社からの意見聴取(各1回) 教育オプザープ飛行 その他オプザープ飛行</p>	<p>○</p>			<p>年度計画にある各種取り組みがなされており、質の向上に対する努力が認められることから、着実な実施状況にあるといえる。</p>
<p>追加教育(進度遅れの者対象) 事業用課程(最大10時間) 多発・計器課程(最大10時間) 平成13年度入学者から実施 多発・計器課程(仙台)は平成13年度該当なし</p>	<p>○</p>			<p>追加教育を必要とする学生がいなかったことは、着実な実施状況にあるといえる。</p>
<p>自主学習環境の改善 CBT・CPTを学生寮に配備 飛行場内気象情報提供装置を設置し、教官・学生に対し情報入手の利便性を図るための環境整備 CBT;コンピュータ自主学習教材(各種操縦システム) CPT;操縦模擬演習装置</p>	<p>○</p>			<p>CBT、CPT、気象情報提供装置の整備がなされており、自主学習環境改善の努力が認められることから、着実な実施状況にあるといえる。 自主学習環境改善のため、今後とも気象情報装置等の新しい教材を有効活用していくべきである。</p>

<p>(2) 航空安全に係る教育の充実 学生に対する安全教育 飛行訓練開始前・宮崎 (航空生理20時間) 飛行訓練開始後・帯広 (航空生理・航空安全 各10時間)</p>	○			<p>新課程による入学者について、 宮崎学科教育課程で20時間、の 帯広フライト課程で20時間の 安全教育を実施しており、着 実な実施状況にあるといえる。</p>
<p>教官の安全意識向上 ・外部講師による安全教育 (年1回) ・教官相互の意見交換(月1回)</p>	○			<p>実科教官に對する外部講師に よる安全教養や見直し等校 におし、また、教員相互に 実施し、毎月複数回の意 見交換を実施しているとい える。</p>
<p>訓練機材の品質の向上 ・整備従事者に対するヒューマ ンファクター教育(年1回) ・ホームページにヒヤリハット 掲示ページを新設 ・年間飛行阻害率を3%以下</p>	○			<p>航大各機の整備員及び整備 会社の整備員に対するヒュー マンファクター教育を実施 しており、年間飛行阻害率 を3%以下に抑えている。</p>
<p>(3) 他機関との有機的連携 関係機関と綿密な連携を図 るため運航管理業務処理体制 の確立</p>	○			<p>航大各機及び関係機関との 連携を図るため運航管理 業務処理体制の確立を図 っているといえる。</p>
<p>(4) 成果の活用・普及 教育の質の向上・効率化を図 るための調査・研究 イ 小型航空機の基礎的な研究 ロ 座学及びフライト課程にお ける教育内容等の調査研究 ハ 指定養成施設等の実地調査 ニ 国際民間航空機関(ICAO)等 の基礎データを収集し、国際 基準の調査・研究を教育に反 映</p>	○			<p>小型機の整備員及び整備員 に対する調査研究を実施し ている。また、座学及びフ ライト課程における教育内 容等の調査研究を実施して いる。また、指定養成施設 等の実地調査を実施してい る。また、国際民間航空機 関(ICAO)等の基礎データ を収集し、国際基準の調査 ・研究を教育に反映してい る。</p>

<p>航空思想の普及・啓発 航空の日：年1回開催 航空教室：年4回程度 市民航空講座：年2回程度</p>	○			<p>航空思想の普及、啓発のため、従来の航空強化（米一）に加え、市民の受ける影響を考慮し、航空教室及び活動の普及を図り、予期しない事態（降は実施状況にあるとする。</p>
3. 予算（収支・資金の年度計画）	○			
4. 短期借入金の限度額 （500百万円）	—			平成13年度は借入金なし。
5. 重要な財産の処分等	—			平成13年度は該当なし。
6. 剰余金の使途	—			平成13年度は該当なし。
7. 主務省令で定める業務運営に関する事項 （1）施設及び設備に関する計画 帯広分校：学生寮増築工事	○			<p>年度計画に従って、帯広分校学生寮の施設運営に必要な増築・改修が実施されており、着実な実施状況にあるといえる。</p>

(2) 人事に関する計画 人員の抑制 外部講師等の活用 イ訓練定員への対応 □ 1,199 百万円程度の人 件費を支出	○			外部講師の活用については、 学生訓練に支障が生じないよう、 教育に必要な資格保有者で対応 し、また、退職者の後補充は、 首席・次席教官で対応するなど、 人員の抑制を図っており、着実 な実施状況にあるといえる。
判 断	順 調		おおむね順調	要 努 力
	○			

- < 記入要領 > ・ 該当欄に ○ を付す。着実な実施状況にない欄に △ を付した項目においては、該当欄に理由を記述する。
- < 判断要領 > ・ 着実な実施状況にある欄のすべての項目について ○ の場合には順調欄に ○ を付し、△ の項目が7割以上の場合には
 はおおむね順調欄に △ を付し、△ の項目が7割未満の場合には要努力欄に △ を付す。
- ・ なお、その他委員からの特筆すべきコメント等があれば、下欄に記述する。

【その他のコメント等】

特になし。

平成13年度業務実績評価：独立行政法人航空大学校

個別業務評価（アカウンタビリティ評価）

判断の観点	判断
主要業務が目的志向的に企画立案・実施されているかどうかについて、自己評価において十分な説明がなされているか。	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-right: 10px;"> 良好 </div> ・ 要努力 </div>
国民への説明責任を果たす上で、自己評価結果がわかりやすいものになっているか。	
適切な自己評価体制や実施方法が確立されているか。	

< 記入要領 >

- ・上記 から の判断の観点を考慮し、総合的に判断。
- ・「法人の行う自己評価が説明責任を果たしているものかどうか」について、特段の問題なしと認められる場合には、判断欄の良好に を付し、それ以外の場合には判断欄の要努力に を付す。
- ・判断欄の要努力に を付す場合には、下欄にその理由を記述する。

【要努力と判断した理由】

- ・なお、その他委員からの特筆すべきコメント等があれば下欄に記述する。

【その他のコメント等】

報告内容のアカウンタビリティは高いと判断でき、目標達成に対する姿勢は評価できるとの意見があったが、報告書の体裁については、分かり易さと内容の充実・正確性を同時に実現するのは難しいと思うものの、量を再考し、見易さ、分かり易さの向上に努力すべきとの意見もあった。

国独評委（教）

業務実績評価調書 - 通知及び公表まで委員限り -

平成13年度業務実績評価：独立行政法人航空大学校

総合的な評価

業務運営評価		個別業務評価 (アカウンタビリティ評価)		総合的な評価
順調	②	良好	①	③
おおむね順調	1			2
要努力	0	要努力	0	1
				0

【自主改善努力について】

身体検査に関する委託研究、教育訓練体制等の維持向上を図るための内部監査制度の導入、既卒未就職者へのサポートなど、理事長以下、教職員の意識改革を伴って努力されており、効果も出ていることから、相当程度の努力が認められる。

・なお、その他委員からの特筆すべきコメント等があれば下欄に記述する。

【その他のコメント等】

特になし。